

中筋川ダム・横瀬川ダムが効果を発揮

～令和5年梅雨前線降雨におけるダムの治水効果について～

- 令和5年6月2日夜からの降雨は、中筋川ダム上流域では累計370mm^{※1}、横瀬川ダム上流域では累計272mm^{※2}を観測しました。
※1:6月1日14時～2日23時（時間最大約62mm・2日8時）
※2:6月1日15時～2日22時（時間最大約35mm・2日8時）
- この降雨により、中筋川は下流の磯ノ川地点で、ピーク水位 6.94m を記録し、氾濫注意水位（5.50m）を超える出水となりました。
- 中筋川ダム、横瀬川ダム2ダムで洪水貯留容量と事前に確保されていた貯水容量と合わせ、約1,410万m³の容量を確保しました。
- 中筋川ダムでは最大流入量の約91%、横瀬川ダムでは最大流入量の約98%をそれぞれのダムで貯留しました。
- 2ダムの洪水調節により、磯ノ川地点で約0.9m水位を低減させ、避難判断水位超過を回避させたと推定されます。

※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

※本発表は、四国圏広域地方計画広域プロジェクト【No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト】に該当します。

問 い 合 わ せ 先

国土交通省 四国地方整備局 渡川ダム統合管理事務所
電話（0880）66-2501

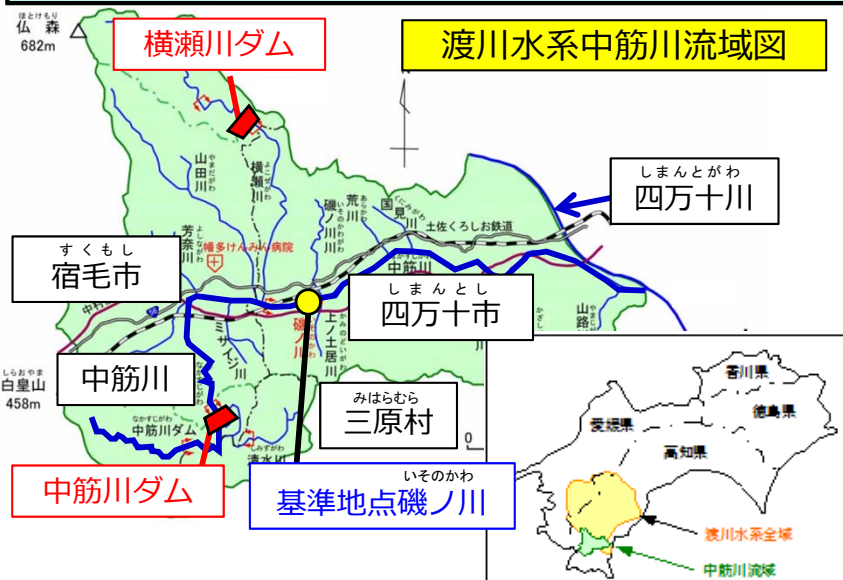
所長 福島 奨 内線（201）
◎管理課長 渡辺 雄二 内線（331）

◎主な問い合わせ先

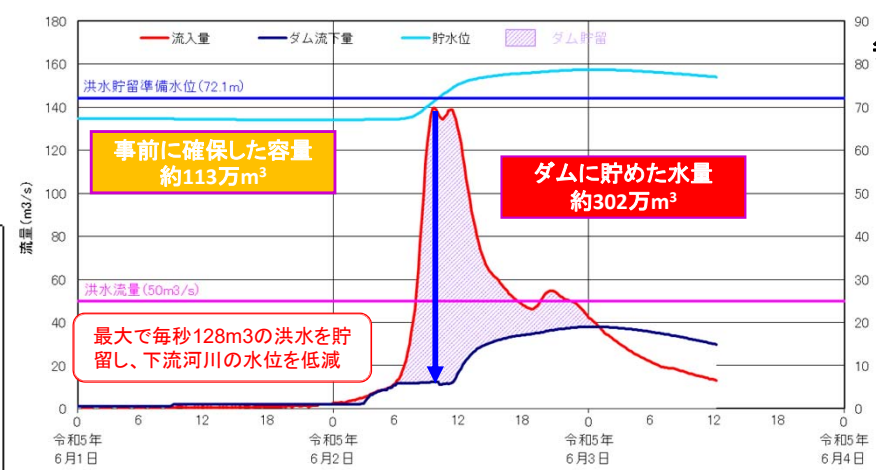
中筋川ダムと横瀬川ダムの効果(高知県・渡川水系中筋川)

- 令和5年6月2日からの降雨は、中筋川ダム上流域で累計370mm^{※1}、横瀬川ダム上流域で累計272mm^{※2}の降雨を観測。
- 中筋川ダム、横瀬川ダムでは2ダムで洪水貯留容量と事前に確保されていた貯水容量と合わせ、約1,410万m³の容量を確保。
- 中筋川ダムでは最大流入量の約91%をダムで貯留し、横瀬川ダムでは最大流入量の約98%をダムで貯留。
- 2ダムの洪水調節により、磯ノ川地点で約0.9m水位を低減させ、避難判断水位超過を回避させたと推定。

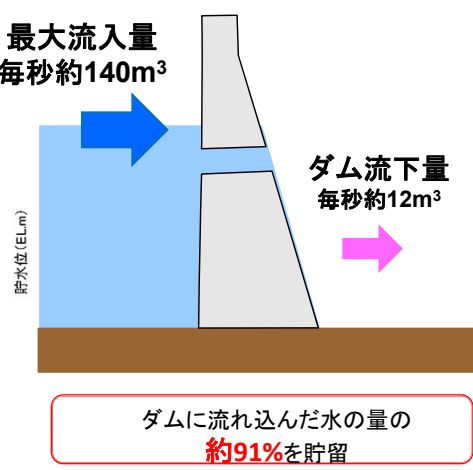
※1:6月1日14時~2日23時(時間最大約62mm・2日8時)、※2:6月1日15時~2日22時(時間最大約35mm・2日8時)



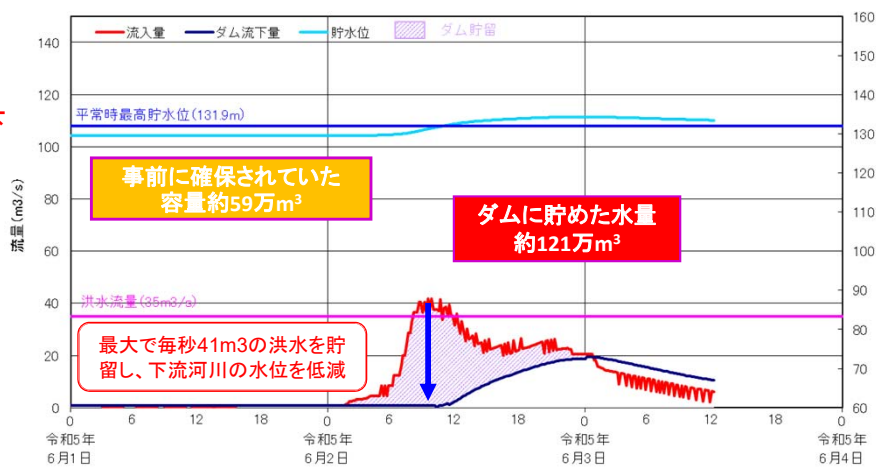
中筋川ダムの洪水貯留状況



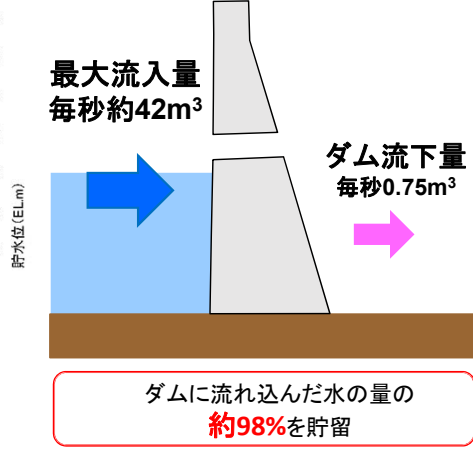
最大流入時の中筋川ダム



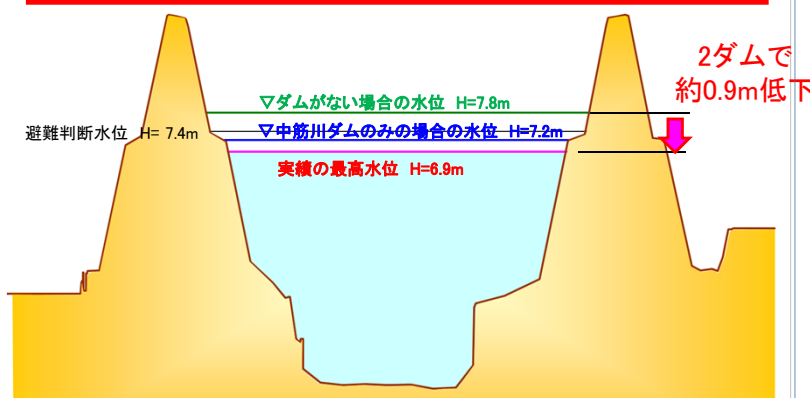
横瀬川ダムの洪水貯留状況



最大流入時の横瀬川ダム



中筋川ダム・横瀬川ダム2ダムにより 磯ノ川地点の水位を約0.9m低下し避難判断水位超過を回避



※磯ノ川地点の水位と流量の関係と、各ダムの洪水調節量などから推定しています。
 ※上記(H:量水標)の値に0.577mを加えた値が標高(m)となります。

ダムの貯留状況

中筋川ダム



貯留前 EL=72.1m (6月1日)



今回洪水による貯留量
約302万m³

貯留後 最高貯水位EL=78.71m (6月3日0時40分)

横瀬川ダム



貯留前 EL=129.48m (6月1日)



今回洪水による貯留量
約121万m³

貯留後 最高貯水位EL=134.30m (6月3日0時30分)